

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

項目数

11

2

1

3

3

2

2

1

1

6

1

2

1

2

2

11

9

2

合計 30

事業所番号	4670300690
法人名	社会福祉法人 舞鶴会
事業所名	グループ・ホーム まいづる
訪問調査日	平成 19年 11月 13日
評価確定日	平成 20年 1月 4日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月22日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県第4670300690
法人名	社会福祉法人 舞鶴会
事業所名	グループ・ホーム まいづる
所在地	鹿児島県鹿屋市大手町10番6号 (電話) 0994-52-1666
評価機関名	特定非常利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成19年11月13日

【情報提供票より】(19年 8月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 6 階建ての ~ 2階部分
------	------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 ~ 15,000 円	その他の経費(月額)	1日 400 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800円	

(4) 利用者の概要(8月 31日現在)

利用者人数	7 名	男性	2 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 76.4 歳	最低	55 歳	最高	86 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	立元内科小児科 桜ヶ丘病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の繁華街にあり、病院跡を改造して1階部分をデイサービス事業所とし、2階部分をグループ・ホームとして開設されている。介護に精通した管理者、計画担当者を中心に職員はチームワーク良く入居者に関わっている。入居者は笑顔で穏やかに生活しており、家族からも喜ばれている。又地域に対して、入居者の作品展示会への来訪を呼びかけたり、花見や運動会等の行事には弁当を作り家族や地域住民の方々との交流に励んでいる。繁華街にある利便性を活かし、地域資源の活用やイベント参加をしながら都市型ならではのグループホームを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	緊急時の手当てに関する継続的な研修についての課題は改善されている
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は、自己評価について意義を理解し、自己評価に取り組み、改善課題を踏まえ、前向きに改善に向けて検討や実践に繋げているが運営者には報告のみである。評価の一連の過程を運営者に報告のみで終わらせず、運営者と全職員で評価を計画的、継続的に取り組み事業所の質の確保に活かしていく事が望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的開催されている。地区住民代表や入居者、家族、行政関係等多数の参加がある。事業所の取り組み内容等報告し、意見や要望を受けサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族会や行事等の参加の折、又面会時に日常の暮らしぶりを報告しながら、意見や要望を引き出す雰囲気づくりに心がけている。出された要望等は、ミーティングで話し合い運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入して、地域の行事(盆踊り、文化祭、十五夜)に参加したり同法人内のデイサービス利用者との交流や幼稚園の子供達の訪問がある。又フラダンスや音楽療法のボランティア等を受け入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループ・ホームの意義と役割を重視した理念を作成し日々のケアに活かしているが、地域密着型サービスの役割を考慮した理念は作られていない。		地域の中でその人らしく生活することを支えるケアの具体的なイメージを持った理念を作成する事が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やホールに明示している。日々のケアの中で遭遇した場面やスタッフ会議等で話し合い共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して町内の行事(盆踊り、文化祭、十五夜)に参加したり、幼稚園の子供達の訪問がある。又法人内のデイサービスとの交流やフラダンス・音楽療法のボランティア等を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について管理者、職員は話し合いで、意義を理解し評価に前向きに取り組む評価経過を踏まえて、改善に向けて取り組んでいる。運営者には報告のみである。		評価の一連の過程を運営者に報告のみで終わらせず、運営者と職員で評価結果に計画的、継続的に取り組み、事業所の質の向上に活かしていく事が望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されている。地区住民代表や入居者家族、行政関係等多数の参加がある。事業所の取り組み内容等報告し、意見や要望を受けサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市で行なわれる研修計画の予定を聞いたり事業所の課題など担当者に相談しながら協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りに入居者の伝言を書いてもらい家族に渡している。面会時日々の暮らしぶりや行事等の様子を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や行事等の参加、面会時に意見や要望を引き出す雰囲気づくりに心がけており、出された要望等はミーティングで話し合い運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動はあまりない。個別担当者はいるが、全職員が全ての入居者を介助しているため馴染みの関係ができています。異動時にはダメージを受けないように十分な説明をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回定期的に行なわれる研修やグループ・ホーム協議会の勉強会に交替で参加している。研修報告と閲覧により職員は共有できている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループ・ホームの行事に参加したり、相互訪問をしている。又運営推進会議に相互に参加して、職員との交流や情報交換を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の折には、病院や自宅に面会に行き生活歴等の把握に努めている。又見学や体験入所を試み馴染みながら信頼関係作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	車椅子 立位 歩行へと介護が改善されて入居者の笑顔に職員は感動や元気をもらいながら、日々を共にして良好な関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で一人ひとりの表情や言動を観察して思いや意向の把握に努め、意向にそった支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとに主治医、職員などの意見を活かした本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回のモニタリングと3ヶ月に1回介護計画の見直しをしている。状態の変化の折にはその都度見直しを行いスタッフ間で統一したケアを目指している。		モニタリングを行い評価をして結果を見直しに活かしていく事が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて病院受診など必要な支援に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談しながら納得したかかりつけ医への受診を支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期について本人、家族にホームの指針を説明し、最善の対応ができるよう取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には個人情報に関する誓約書をもらっている。排泄介助時には本人に鈴を鳴らしてもらったり、小声で話しかけるなどして入居者の尊厳を大切に、ゆったりとした態度で対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決められていない。安眠や休息、日常の作業やレクリエーションなど一人ひとりの体調に合わせて入居者のペースで生活できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を聞いて作成している。配膳や下膳などできる事をしてもらいながら職員も一緒に食事している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日が決められているが、一人一人の希望にこたえられるように支援している。介助の必要な利用者には、同建物内のデイサービスの浴室で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の趣味やできる事を把握しテレビ鑑賞やぬり絵、折り紙、洗濯物干し、食事の仕度など得意な事に力を発揮してもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に行っている散歩や買い物の他、温泉入浴や外食に出かけるなどホームに閉じこもらない工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけないことの重要性を認識しているが、入居者の状態悪化の際は家族と話し合い時々施錠している。常に職員はその事を議題に話し合い見守りに集中したケアを心がけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルや備蓄はされている。年2回避難訓練と救急救命の講習を受けている。夜間想定災害訓練を地域住民の参加で行う計画も準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量を記録している。栄養バランスを把握して一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく圧迫感を感じさせない工夫をしている。壁には行事毎の飾りつけがあり、食事にも季節感を取り入れる工夫をしている。入居者の手作りのクッションが置かれて居心地良く過ごせる配慮をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はホールから直接見通せず、プライバシーは確保されているが、どの居室も馴染みの物品の持込みが少なく、過ごしやすい居室空間づくりの工夫がなされていない。		職員は家族と相談しながら、それぞれの利用者の好みや馴染みのものなどを活かした、居心地の良い居室づくりに取り組むことが望まれる。